

企業参入による取組事例〔愛知県豊田市〕

1. 地域農業の状況

○ 豊田市は、愛知県北部に位置し、標高3.2mから1,240mに至る変化に富んだ地形となっており、岐阜県及び長野県に接し、面積918.47km²で、愛知県の17.8%を占める人口42万人の中核市。



○ 「くるまのまち」として知られるとともに、豊かな水を育む森林が市域の約7割を占めており、活発な産業活動に支えられつつ、地域の活性化や都市住民と農山村住民の活発な交流を図っている。

○ 豊田市は、米・野菜・果実・花きなどの生産が盛んで、特に米は産出額・収穫量とも県内第1位（平成25年産）、梨・桃なども県内有数の産地となっている。

○ 農業就業人口は、年々減少しており、60歳以上が8割近くを占めるなど、高齢化が進行し、農業後継者不足が深刻になっている。

○ 特に、中山間地域では、担い手不足は深刻で、イノシシ被害も加わり耕作放棄地は増加傾向にある。耕作放棄地面積は1,053ha（2010年世界農林業センサス）となっている。

耕地面積	6,740ha	総農家数	7,192戸
田耕地面積	5,170ha	自給的農家数	3,884戸
畑耕地面積	1,570ha	販売農家数	3,308戸

資料：耕地面積統計（H26年）、2010年農林業センサス（農林水産省）

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	(株)サンライズファーム豊田	地区名	御作(みつくり)地区
再生面積	2.1ha(経営面積2.1ha)	取組年次	平成25年度
作付作物	トマト栽培	販路	地元農協等

企業参入による耕作放棄地の再生利用

- (株)サンライズファーム豊田は、全国で農業ビジネスを展開する住友化学(株)の農業法人。
- 耕作放棄地を再生して施設を建設し、地域農業の活性化、先進技術を用いた農業の実現、地域雇用の創出を目的として、環境制御技術を活用して高品質・高収量のトマト栽培を目指す先進的な農業に取り組んでいる。
- 平成25年2月設立。平成26年2月～栽培開始(試験稼働)、平成26年8月～本格稼働。
- 平成26年5月より出荷を開始。収穫量の目標は、施設全体で年間150トン。
- 農場長1名、周辺地域からパート職員を20名雇用。
- 施設：光、温度、湿度、炭酸ガス、養分などをコントロールした最適な生育環境のもとでトマト栽培。
 - ★栽培棟(56a)：効率的な運営による高収益を目指す。ミニトマトを栽培。
 - ★研究棟(22a)：先進技術の実証フィールドとして活用。大玉トマトを栽培。
 - ★管理棟：事務所、集荷・選果、発送等関係施設。
- 地域との交流をより深めながら、周辺の耕作放棄地の活用も検討。



【再生前】



【再生後】



【栽培棟】

活用した支援策

- H25 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生【重機】・施設等補完整備)
- H25 耕作放棄地対策事業負担金(市)